

平成18年度財務諸表について

今般、公立大学法人大分県立看護科学大学の平成18年度財務諸表が大分県知事の承認を受けましたので、ここに公表いたします。

今回の決算は、本学が公立大学法人となって初めての決算であり、財務諸表は企業会計原則を基本にしつつ、公立大学法人特有の会計制度を加味した「地方独立行政法人会計基準」に基づき作成したものです。

この財務諸表によれば、平成19年3月31日現在における資産合計は、約36億90百万円、経常収益は約8億82百万円、経常費用は約8億16百万円、経常利益は約6千5百万円、臨時損益を加味した当期総利益は約6千5百万円となっております。

当期総利益約6千5百万円につきましては、中期計画に定めた「教育研究の質の向上及び組織運営の改善」に充てるための目的積立金に積み立てることとして、今般大分県知事の承認を受けました。

なお、当期総利益の主な発生要因は、教員の採用時期のタイムラグや新旧交代による差額効果などにより人件費が抑えられたことや、コスト意識をもった業務運営を行ったことなどによる効果です。

本学は大学運営経費の約7割強が県からの運営費交付金で賄われておりますが、運営費交付金については効率化の観点から年々抑制される見込みであり、厳しい財政運営が求められます。今後さらに教育研究活動の充実発展のためより一層の経営努力と業務運営の効率化を図りながら、財務内容の充実に努めて参りますのでご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

平成19年9月

公立大学法人大分県立看護科学大学
理事長 草間 朋子